

特集3 持続可能な未来のあいちの担い手育成「人づくり」

～かがやけ☆あいちサステイナ研究所～

2014年（平成26年）は、県の環境面における「人づくり」を推進する上で、大きなターニングポイントになりました。

その理由は、2つの大きなきっかけがあったためであり、これらを踏まえ、より積極的に県は「人づくり」の推進に取り組んでいます。

まず1つ目は、2014年5月に「第4次愛知県環境基本計画」を策定し、「県民みんなで未来へつなぐ『環境首都あいち』」を目標として、県民・事業者などのあらゆる主体の高い環境意識を背景に、省エネルギーや省資源といった環境への負荷を減らす身近な環境配慮行動の実践へとつなげる、持続可能な未来のあいちの担い手育成「人づくり」に重点的に取り組んでいくことを掲げたことです。

この「人づくり」については、「安全・安心の確保」、「社会の低炭素化」、「自然との共生」及び「資源循環」の4つの分野における県の環境施策を総合的に推進するための基盤となる取組として位置づけています。

2つ目は、2014年11月に愛知県で、「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議（以下、「世界会議」という。）」が開催されたことです。

この世界会議のテーマであるESDとは、「今の世代はもとより、将来の世代も含めたすべての命を思い、子どもたちが将来、安心して幸せに暮らせる『持続可能な社会』のために今何をしたらいいかを考え、行動する」ことであり、持続可能な社会の担い手づくりを意味します。

この世界会議の成果としては、「あいち・なごや宣言」の採択や、「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム」の開始が宣言されたことで、「国連ESDの10年（2005年～2014年）」以降もESDの取組をさらに推進することが決定されたことです。

この「あいち・なごや宣言」では、

- ①ユースをキーとなるステークホルダーに巻き込み尊重すること
- ②ユースの課題解決能力等の能力育成を強化することが重要

とされており、これらのことを踏まえ、県では、2015年から、大学生を対象に、「人づくり」プログラムを立ち上げました。

本特集では、この学生向けの「人づくり」プログラムである「かがやけ☆あいちサステイナ研究所」について紹介します。

ESDとは Education for Sustainable Development

環境、貧困、人権、平和、開発といった、現代社会の様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そして、それにより持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動のことです。



1 研究所の概要

県は、近い将来、地域の担い手となる学生が、グローバルな視点を持って、継続的に環境配慮行動を実施していくプログラムとして「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」を2015年に立ち上げました。

本研究所は、大村知事を所長、中日新聞論説委員の飯尾歩氏を顧問とし、大学生20名が研究員

として活動しました。5社のパートナー企業から環境面での取組に関する課題を提示され、研究員4名が1チームとなって、各パートナー企業の現場での調査や企業の担当者とのディスカッションを経て、解決策を研究するとともに、その成果をYouTubeなどのSNSや「エコリンクあいち」、イベントを通じて広く発信しました。



かがやけ☆あいちサスティナ研究所の概要

2 パートナー企業と研究課題

本研究所に協力したパートナー企業5社と、研究員に与えられた研究課題は以下の表のとおり

であり、各企業が実施している環境に関する取組について魅力的な課題が提示されました。

 アイシン精機株式会社	<p>「環境学習プログラム」をさらに効果的にするための方策を検討せよ。 同社グループではNPOと協働で県内の小学校高学年を対象に「アイシン環境学習プログラム」を年間通じて実施しています。このプログラムをさらに効果的なものとするため、子どもへの学習効果を検証する評価方法の基盤づくりを実施するとともに、同プログラムを受講した子どもたちがその後もエコライフを継続的に実践できる方策を検討します。</p>
ソニーイーエムシーエス株式会社 Sony EMCS Corporation ソニーイーエムシーエス株式会社	<p>環境配慮企業としてのイメージアップ戦略を検討せよ。 エレクトロニクス商品の設計、製造、カスタマーサービス等を行う同社が実施する「ソニーの森」における様々な環境活動。その環境活動を広くPRする手法を検討し、環境配慮企業としての消費者の認知を促すための方策を検討します。</p>
 東邦ガス株式会社	<p>エネルギー事業者として、最適な環境活動を検討せよ。 同社は天然ガスの普及拡大を通して、環境調和型社会の実現に貢献しています。また、ガスエネルギー館の運営やピオトープでの環境学習活動、エコ・クッキング活動などの環境活動を実施しています。今後、同社が総合エネルギー企業として実施していく環境活動の新たな方向性や具体策について検討します。</p>
 三井住友銀行 株式会社三井住友銀行	<p>環境配慮企業を後押しする新たな金融サービスを検討せよ。 同行は、独自の環境配慮評価基準に基づいてお客様の環境配慮状況を評価し、この結果に応じた条件設定により融資を行う「SMBC環境配慮評価融資」等の環境ビジネスを展開しています。企業の環境経営を後押しするような新たな金融サービスを検討します。</p>
 ユニーグループ ユニーグループ・ホールディングス株式会社	<p>自社ブランドの環境配慮商品の開発及びPR方法を検討せよ。 自社の環境配慮型プライベートブランド「eco! on」について、フィールドワークやマーケティング等を通して、新商品の開発やPR方法について検討します。</p>

パートナー企業と研究課題

3 プログラム

研究員は8月から11月までの3か月間にわたり研究活動を実施し、以下の表のとおり、8月21日の開所式・知事表敬訪問を皮切りに、企業環境活動研究、成果発表準備、研究成果プレゼンテーション、修了式・成果発表会を実施しました。成果発表会に向けては、パートナー企業の担当者の方やファシリテーターを交えてディスカッションを実施するなど積極的に研究活動を実施しました。

また、開所式にあわせて、研究員は本研究所の所長である大村知事を表敬訪問しました。知事からは、「日本一の産業県である愛知だからこそ、環境面でもトップランナーでありたい。若者のアイデアでぜひ良い提案をしてほしい。」と激励を受けました。研究員からは、各チームのリーダーが研究所での活動に対する抱負や意気込みを話しました。

日程	プログラム	時期	場所
—	オリエンテーション	8月6日(木)	名古屋市内
1日目	開所式・知事表敬訪問	8月21日(金)	愛知県庁
2～5日目	企業環境活動研究	8月下旬～9月下旬	県内 (パートナー企業)
6～8日目	成果発表準備	10月	名古屋市内
9日目	研究成果プレゼンテーション	10月31日(土)	名古屋市内
10・11日目	修了式・成果発表会	11月14日(土)・15日(日)	アスナル金山
—	出張成果発表会	12月	県内大学

プログラムの内容と時期

ア 開所式・知事表敬訪問

開所式では、県内13大学から参加した研究員20名はパートナー企業5社から研究課題についての説明を受けました。このほか、飯尾歩氏による基調講演、環境省中部環境パートナーシップオフィスの新海洋子氏によるセミナーが行われた後、研究員たちは、各チームに分かれ、研究員をサポートするファシリテーターやパートナー企業と熱心にディスカッションを行いました。

また、開所式にあわせて、研究員は本研究所の所長である大村知事を表敬訪問しました。知事からは、「日本一の産業県である愛知だからこそ、環境面でもトップランナーでありたい。若者のアイデアでぜひ良い提案をしてほしい。」と激励を受けました。研究員からは、各チームのリーダーが研究所での活動に対する抱負や意気込みを話しました。



開所式



知事表敬訪問

研究員の所属大学	愛知教育大学	愛知県立大学
愛知淑徳大学	金城学院大学	大同大学
中京大学	中部大学	名古屋学院大学
名古屋学芸大学	名古屋工業大学	名古屋市立大学
南山大学	日本福祉大学	合計 13大学

イ 企業環境活動研究

企業環境活動研究では、研究員が各チームでパートナー企業に赴き、各企業が実施する環境に関する取組を現場で調査・研究しました。

チーム・AISIN GROUPは、「アイシン環境学習プログラム」を実施している学校に赴き、担当の教諭から実施状況についてヒアリングしました。

また、チーム・ソニーイーエムシーエスは、ソニー幸田サイトにある「ソニーの森」で、同社が

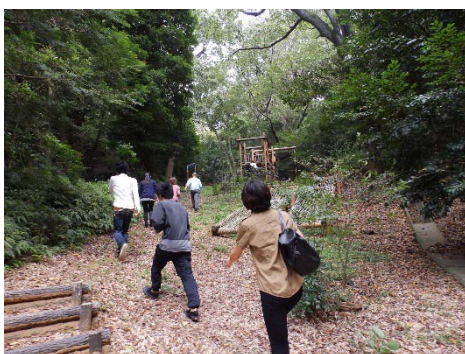
取り組む環境活動を実際に体験しました。

チーム・東邦ガスでは、地球温暖化とエネルギーをテーマにした施設「ガスエネルギー館」やビオトープの取組を現場で調査しました。

このように、研究員は各パートナー企業が実施する取組を現場で調査・研究し、企業の担当者から直接話を聞くことで、各企業の環境活動に対する理念や、担当者の高い環境意識に大いに刺激を受けました。



チーム・AISIN GROUP



チーム・ソニーイーエムシーエス



チーム・東邦ガス

ウ 研究成果プレゼンテーション

研究員は、企業環境活動研究の後、各チームで研究課題に対する提案内容を検討し、成果発表準備

を経て、パートナー企業に対してその成果をプレゼンテーションしました。

各チームの提案内容は、以下の表のとおりです。

チーム名	提案内容の概要
チーム・AISIN GROUP	プログラムの効果をより正確に把握するため、記述の苦手な児童でも本音を答えられるよう、教員による児童への個別ヒアリングの実施を提案。 児童が継続的にエコ活動を実践するためには、教員の環境意識の向上が必要であると分析し、教員の環境に関する知識と環境意識の醸成を図る教員研修を提案。
チーム・ソニーイーエムシーエス	新入社員を森の案内人として育成するプロジェクトや、学生が地域の人を巻き込んで実施する生き物マップづくりや、幸田町役場と連携した植樹活動等により、「ソニーの森」の環境活動を社員、学生、地域が連携して取り組むことを提案。
チーム・東邦ガス	同社の環境活動に参加したことのある人による「エコティなクラブ」と、大学生達による「エコティなサークル」という2つの団体を組織し、これらの団体が東邦ガスの環境活動に関する企画・運営・広報に積極的に参加することにより、東邦ガスの環境活動を県民に広く紹介し、多くの参加を促す企画を提案。
チーム・三井住友銀行	地域資源を活用した環境配慮型モノづくりを行っている県内の中小企業を対象に、製品のデザインやPR用動画を学生の斬新な発想で製作するサービスを提供する融資特典「あいちエコもの+（プラス）」を提案。
チーム・ユニー	店頭でのインタビュー調査などにより、消費者と従業員の「eco! on」の認知度が低いという課題を明らかにした上で、従業員による商品のキャッチコピーコンペ、学生による商品のパッケージデザインコンペ、商品PR動画の作成を提案。

各チームの提案内容の概要



チーム・三井住友銀行



チーム・ユニー

エ 修了式・成果発表会

11月14日(土)・15日(日)に開催した「Let's エコアクション in AICHI～実らせよう!地球への想い。～」において、研究員は所長である知事から修了証と記念品(名刺)を受領し、研究所の

第1期生としての研究活動が称えられました。

また、同イベントのブースにおいて研究成果を発表するとともに、県内の大学で同世代の大学生に対して自分達の活動を広くPRしました。



修了式



ブースでの成果発表

4 今後の展開

研究所の第1期生からの提案内容の中で、研究員として継続的に企業等と連携して環境活動を実践したい、学生同士の結びつきを強めたいとい

う要望が出されました。こうした要望を踏まえ、今後は、本研究所がより地域に根付いたものとなるよう取り組んでいきます。



チーム・AISIN GROUP



チーム・ソニーイーエムシーエス



チーム・東邦ガス



チーム・三井住友銀行



チーム・ユニー

「人づくり」に関するドイツ先進事例だより

ここでは、ESD 先進国であるドイツにおいて実施されている先進的な学生向けの「人づくり」の取組を紹介します。

○ 第7回サステイナブルサマースクール

主に EU の大学生 30 人程度が参加し、若い世代の視点で持続可能な社会をデザインすることを目的に、教育機関、大学等からなる実行委員会の主催で開催されています。

参加学生は7泊8日の泊り込みで、3つのテーマに分かれてワークショップを実施し、持続可能な社会づくりについて学生やファシリテーターである大学、研究機関のスタッフを交えてディスカッションを行い、最終日には研究成果を取りまとめてプレゼンテーションを実施します。

ワークショップの3つのテーマは以下のとおりです。

①Setting up mental models to translate sustainability into practice

(日々の生活で無理なく持続可能性を実現するための精神モデルの構築)

②Design as a transformational narration

(日々の生活で持続可能性を意識できる伝え方のデザイン)

③Time to change !

(日々の生活の時間感覚に変革をもたらし、長期的な視点で生活スタイルを見直すことにより、エコロジカルフットプリントを減少させるモデルの構築)

サステイナブルサマースクール3日目の「Expert Day」では、企業の代表者や映画監督、オーケストラのディレクターなど様々な分野の第一線で活躍する講師から講義を受け、ワークショップのテーマに関する知見を深く得ることで、より有意義な議論を進めることができます。

7日目のプレゼンテーションでは、学生達が検討した成果を発表し、学生の間で共有しています。

このサステイナブルサマースクールは企業と連携して取り組まれており、ドイツ国内の企業に対しても発表の場が用意されるなど、より多くの人にその成果を発信することで、持続可能な社会づくりに向けた取組を多様な主体に浸透させることに貢献しています。



第7回サステイナブルサマースクールの会場
(NIKOLAUS KLOSTER)

日程	内容
1日目	アイスブレイク
2日目	イントロダクション、各ワークショップテーマの説明、デザインガイド [*] の説明
3日目	Expert Day (各ワークショップのテーマに沿った著名人等の講義)
4～6日目	各ワークショップに分かれてディスカッション
7日目	プレゼンテーション、交流会
8日目	解散・帰宅

^{*}デザインガイドとは、ワークショップの各テーマを議論するに当たり、事前に学習する教科書のこと。



プレゼンテーションを熱心に聴講する学生